

教育カウンセラー

CONTENTS 目次

巻頭言 金山元治	1	日本教育カウンセリング学会活動報告	8
教育カウンセラー協会活動報告（幹事会）	2	サイエンティスト・プラクティショナー賞	9
JECA創立25周年に参加して（その2）	3	第22回研究発表大会のご案内	10
関連学会紹介シリーズ	4	日本教育カウンセリング学会常任理事会	11
現場訪問シリーズ	5	日本スクールカウンセリング	
実践研究シリーズ	5	推進協議会のご案内	12

JECA JSEC

巻頭言

奈良県教育カウンセラー協会の設立にあたって
天理大学人文学部心理学科教授 金山元春

2024年7月、日本教育カウンセラー協会の奈良支部にあたる「奈良県教育カウンセラー協会」が設立されました。当協会では、奈良県の教職員をはじめ、さまざまな立場から子どもの教育支援に携わる方々とともに、教育カウンセリングの考え方や方法について学び合うための機会を提供していきます。そうして、子どもを支える人たちが支え合い、助け合えるようなネットワークの構築を目指しています。



11月には設立記念講演会『人と関わる知恵』（講師：当協会代表・金山元春）を開催しました。この記念講演会は、教育カウンセラーらしく、講師と参加者そして参加者同士が絶えずやり取りする参加型・対話型の講座としました。いわゆる講演録では再現できませんので、ここでは講座の主旨を記載しておきます。

人は自分なりの「ものの見方」でこの世界を見ており、それがその人の行いに反映されます。そして、ある人の行いは別のある人に影響を与え、それが連鎖していくと、そこに特有の状況が生まれます。つまり、人と人との間で生じることは、そこに関わる人々の影響の及ぼし合いの結果なのです。これを「相互作用」といいます。

うまくいっている状況も、その状況に関わる人々の影響の及ぼし合いの結果ですし、うまくいっていない、つまり「問題」とされる状況も、その状況に関わる人々の影響の及ぼし合いの結果といえます。そうした状況を変えたいのであれば、相互作用の中にある誰かが変わればよいのですが、それでは、誰から変わればよいのでしょうか。

私たちは人間関係の問題に直面すると、まずは誰が悪いのかをはっきりさせて、その人に態度を改めてもらおうとします。しかし、そうした関わり方は人間関係の軋轢を生んで、かえって状況を悪化させることがほとんどです。ですから、問題とされる状況に気づいた時には、その状況に関わる人々のことをどう見るのかという自らのものの見方を変えて、その状況を共にする人との関わり方すなわちコミュニケーションを工夫していく必要があります。

「教育カウンセリング」の世界には、人と関わる知恵として役に立つものの見方やコミュニケーションの工夫が豊かに蓄積されています。当日は、その中から「構成的グループエンカウンター」「解決志向アプローチ」「クラス会議」などについて、体験を通じて学ぶ機会を提供しました。

参加者は、教員、保育者、スクールカウンセラー、福祉施設職員、子育て支援者、教育行政担当者、教育や心理学を学ぶ大学生・大学院生など、多様でしたが、シェアリングの様子からは、それぞれが今後の教育支援活動に資する学びを得られていたことが伝わってきました。当協会に対する熱い期待も寄せられましたので、役員で今後の活動計画を練っているところです。

最後に、当協会の設立にご支援を賜りました皆さまへ改めて厚く御礼申し上げます。今後どうぞよろしくお願いいたします。

教育カウンセラー協会活動報告 (幹事会)

会員の皆様にご理解していただきたい内容について報告いたします。

1. 協会本部の組織的運営を進めています

コロナ禍が続くなかで協会本部の運営が各委員会の委員長中心に傾いていましたが、コロナ後、正副会長と各委員会とが連携した組織的な運営へとシフトしています。具体的には正副会長会議(正副会長、事務局長・次長)、幹事会(正副会長、養成講座委員長、認定委員長、子育て支援委員長、事務局長・次長)のそれぞれを毎月 1 回、定期的に開催し、協会の重要事項を含む様々な事案について協議して決定する体制をとっています。また、委員会においても、SGE 事業・研究委員会は、毎月 1 回開催され、議論して活動を進めています。

2. 本部と支部との連携を強化しようとしています

協会は、本部と支部の活動から成り立っています。支部の活動が活性化するよう本部として支援していきたいと考えています。現在、本部として力を入れているところは以下のようです。

(1) 5 月の支部代表者会議

コロナ後、昨年 2024 年に久しぶりに対面集合の支部代表者会議を開催しました。本部は、各支部 1 名につき旅費(交通費・宿泊費)を負担させていただきました。参加者からは、対面で挨拶出来たり話を交わしたりすることができ、ほんとうに良かったという感想を多くいただきました。2025 年度も 5 月 17 日(土)13 時から、昨年と同様に対面で行う予定ですので、昨年参加した支部はもちろん、参加できなかった支部の参加を是非ともお待ちしております。

(2) 秋の支部懇談会

オンラインで、支部の困りごと・悩み事・お考えを事務局長・次長・職員がお聞きする「秋の支部懇談会」は昨年 2024 年度で 3 回目を数えました。おかげさまで短い時間ですが、支部と事務局との関係づくりや支部のご事情を理解するよい機会になっています。

今年も、11 月 30 日(日)13 時～(予備日 12 月 3 日

(水)13 時～)に開催予定ですので、支部のお考えをどしどしとお寄せください。

(3) 支部の無い県の会員

現在、支部の無い県が 13 あります。支部の無い県の会員の方は、オンラインで養成講座や各種研修会に参加でき、また中・上級試験の受験も可能となっていますので、特に困る状況にないと思われますが、これからは近県で実施する養成講座等の研修会に参加しやすくなるような仕組みを作っていきたいと考えています。また自分たちの県で支部を作り、活動することを希望する方を支援していきたいと思います。

3. 文部科学省の政策に対応した方針を立てていきます

2025 年度から文科省は「生徒指導担当教師」が全国の公立中学校に 1、380 人を加配配置し、それを 4 年計画で拡大していきます。また、現在、日本スクールカウンセリング推進協議会が開発委託を受けている文科省「心理に強い教員の資質・向上プログラム(仮称)」研修(3 日間)が、2026 年度から都道府県教育委員会で実施され、その受講修了者には民間資格を取得することを勧めています。さらに、大学の教員養成課程に対し「心理に強い教員」の養成を求めています。

以上のような文科省の政策に対応し、(1)文科省の「心理に強い教員プログラム」の受講修了者、(2)教員等を養成する大学の学生(すでに養成講座を半額で受講可能)、(3)教員としてのキャリアを長く持ち教育カウンセリングの実践に熱意のある管理職教員の、これら三者が教育カウンセラー資格を取りやすくするようにしたいと考えています。

4. 赤字状態からの脱却を目指しています

残念ながら本部の収支決算は、永らく赤字が続いています。この状態から抜け出すための基本的な方向は収入を増やし、支出を少なくしていくほかありません。そこで、以下のようなことをしていきたいと考えます。

<収入を増やすために>

(1) 会費未納を少なくする:是非、会員の皆様のご協力をお願いします。

- (2) 養成講座の受講者を増やす:コロナ後、養成講座を再開する支部が徐々に増えてきています。
- (3) 教育カウンセラー、子育て支援教育カウンセラーの資格取得者を増やす:新たな分野での資格取得者を開拓したいと考えています。

<支出を減らすために>

- (1) 役員・委員の会議費の削減:オンラインによる会議が多くなっているため、交通費・お弁当代の支出がなくなりました。
- (2) 役員・委員の会議出席謝金:財政が好転するまで「支給しない」としました。
- (3) 委員会活動に伴う作業労務謝金:時間刻みの 4 段階で支給することにより減額しました。
- (4) 本紙「ニューズレター」の郵送を取りやめる:郵便料の値上げ等により本号を紙媒体の送付を止め、メールによる電子媒体の送付に移行します。メールでの配信ができないところは、従来通り送付する予定です。是非、ご理解ください。
- (5) 認定申請書資料を HP からダウンロードにするようにする:これまで資格認定の希望者に事務局から必要書類を送付していましたが、これからは HP からダウンロードしていただくことにします。ご協力をお願いします。
- (6) 日本教育カウンセリング学会への寄付金の減額:2024年度から実施しています。
- (7) 事務所の賃借料の一部負担化:本協会の事務所の「大家」である図書文化社に対して本協会が代表して賃借料を支払っていますが、2025年度から日本教育カウンセリング学会と日本スクールカウンセリング推進協議会に賃借料の一部負担をお願いしました。
- (8) その他:必要に応じて、今後さらに支出面の削減に取り組みたいと考えています。

5. 資格認定にかかる日数を短くするようにしています

これまで資格認定試験を受けた日や申請書を提出した日から、4 カ月前後かかるケースもありましたが、認定作業を見直すことにより、3 カ月程度に短縮することを目指しています。試験を受けた日や申請した日から長くお待ちせしないよう努めます。

6. 会員の高齢化に対応します

協会設立 26 年目となり、高齢の会員が多くなりました。人生百年時代と言われますので、体力があるかぎり、可能な範囲で活動に励んでいただければ有難く存じます。協会では昨年度、「終身会員(ゴールドン会員)制度」を新設しました。その条件は、「満 80 歳以上かつ会員歴 10 年以上の会員」となります。年会費が免除されます。2024 年の初回は、5 名の方から申し込みをいただきました。該当する方が、お近くにいる場合は、お声がけをお願いします。詳しいことは HP に出ています。

7. 協会 HP をご活用ください

協会 HP には、会員に役立つ情報が満載です。全国の支部ならびに本部主催の養成講座(初級・応用)や SGE の各種研修会の詳しい案内が掲載されています。また、子育て支援教育カウンセラー関係について研修会を含めた情報も載っております。養成講座以外の研修会を開催する趣旨で誕生した研修委員会の研修会案内もございます。その他、本部や支部で実施される中・上級試験の実施案内、そして無料で視聴できる研修動画 12 本も載っております。「お問い合わせ」の中にある「ご相談」(カウンセリング・コンサルテーション・スーパービジョン)も利用できますので、是非、ご活用ください。

以上

JECA 設立 25 周年記念パーティーに参加して
北海道教育カウンセラー協会 副代表/事務局長
吉田ゆかり

5 月 3~5 日の同会場(南砂町 Stay&grow)で行われた 2 泊 3 日の濃い SGE 体験コースの達成感も冷めやらぬ翌日 5 月 6 日、設立 25 周年記念パーティーに出席しました。北海道からは國分康孝賞を受賞したメンバーも参加し、富山支部で作成したビデオを視聴しながら、SGE や Zoom 研修で見知ったお顔、いろいろな研修で出会った仲間と、懐かしく同窓会のような雰囲気でも 25 周年を振り返り、祝うことができました。

20 周年記念パーティーは、令和元年(2019 年)5 月に早稲田大学近くのリーガロイヤルホテル東京で開催されました。その後の 5 年はまさに「激動の 5 年」だったと思います。

20 周年の前年 2018 年 4 月 19 日に國分康孝先生が、2019 年 1 月 29 日に前副会長の片野智治先生が急逝、そして 2024 年 2 月 22 日に國分久子先生が旅立たれました。2020 年 2 月からは新型コロナウイルス感染症の大流行で対面講座の開催は中止を余儀なくされました。北海道の設立 20 周年記念祝賀会も東京オリンピックのマラソン開催とともに二転三転後に延期となりました（今年 9 月に 25 周年として行います）。

そしてこの 5 年は新しい JECA のカタチを作るための「模索の 5 年」でもありました。北海道ではオンラインでの研修の企画、ハイブリッドへの移行、タブレット SGE の開発に取り組んできました。本部でも、國分両先生・片野先生の思いを引き継いだ新しいリーダーの元、養成講座のオンライン移行、子育て支援教育カウンセラー資格の新設、SGE スタンドアードの作成などに取り組んできました。中でも、2023 年 5 月に開催されたクロスウェーブ船橋での SGE 公認リーダーWS は忘れられないものでした。國分両先生、片野先生、村主図書文化社長の存在を近くに感じられる会場で、「SGE を公認リーダーが中心となって普及していこう」と決意を新たにさせられました。

國分先生は遺稿『カウンセリングとともに生きる』（図書文化 2018）のあとがきで、「縁ありてこそその八十八年であった」と述べられています。コロナ後、子どもも大人も人と「出会う」こと「ふれあう」ことに遠慮し、積極的に人とかわることを避けるようになりました。5 年後の 30 周年には何が起こるか予測不可能ですが、國分両先生が与えてくださった「縁」を大切に、新しいステージ、新しい JECA のカタチを育てていきたいと感じた 25 周年パーティーでした。

國分康孝先生・久子先生の 思い出とともに

大木百合江

私は SGE 体験ワークショップでスーパーバイザーの國分康孝先生を「アンパンマンのような方です」と紹介したことがありました。康孝先生は村主さんに「アンパンマンとはどんなものなのか」と尋ねたそうです。私は、正義の味方で、信念をもって突き進む、私たちの憧れの人という意味を込めて紹介したつもりでした。それは、時が経った今でも変わらず、康孝先生は信念をもって進んでいく、頼れる偉大なヒーローだったと感じています。

埼玉の養成講座では久子先生を「温かく、優しみを込めた気概あふれる介入は、私の憧れで…」と紹介させて

いただきましたが、今でも介入場面での久子先生の姿が浮かびます。また、久子先生は片野先生が体調を崩して入院されたとき「片野さんが居なくて皆さん寂しいおもいをしているのではないかなと思ってね。」と埼玉の月例会に来て下さいました。その時、参加費 500 円をそっと支払ったのです。「一緒に学ぶ仲間だから当然よ」と。久子先生の思いやりと自然な振る舞いに心を打たれ、私もこのような生き方をしたいと思ったのです。

久子先生は、康孝先生の亡き後、一人で入居されている部屋に私たちが訪ねていくと、喜んでくださり、温かく迎えてくれました。そしてベッドの脇のテーブルには、いつもエンカウンターの本がありました。（康孝先生とエンカウンターしていたのかもしれませんが。）

昨年の 9 月 23 日は佐藤勝男先生の案内で埼玉の仲間とともに、鎌倉へお墓参りに行きました。しかし。國分先生ご夫妻がここに永眠されているという実感が湧きませんでした。「しっかりやってるかね」「大丈夫よ、あなた達なら」と、お二人で会話しながら、見てくださっているような気がしてなりませんでした。お二人の声が聞こえてくるようでした。

國分先生ご夫妻のお姿を見ることはかありませんが、その足跡や熱い志は JECA の多くの仲間によって受け継がれていくに違いありません。私も「治そうとするな、分かろうとせよ」「自分を知る程にしか他者を知ることは出来ないのよ」という両先生の言葉を深く心に留め、誠実に歩んでいこうと思います。私に出来ることを精一杯やっていこうと思います。

國分康孝先生・久子先生、ありがとうございました。また鎌倉山に会いに行きます。

学会等紹介シリーズ ③

日本思春期学会 JSA

「日本思春期学会」(Japan Society of Adolescentology)は、前身である昭和 38 年に設立された「思春期医学シンポジウム」で、年 1 回、第 19 回まで開催されましたが、その後国際小児思春期婦人科連合の日本支部とするため、「思春期医学研究会」と名称変更し研究集会の活動を続けてきました。近年、思春期の暴力・非行や人工妊娠中絶の増加など、青少年の行動が話題となるに伴って、思春期の医学的問題にも一般の関心が寄せられるようになったことと、思春期の問題が幅広い分野の協力を必要とし、参加者も医学や保健関係者だけに限るべきではないことから、昭和 57 年に「日本思春期

学会」とすることになりました。会員数は、2,008 名（2024 年 3 月 31 日 現在）です。

近年、医学のめざましい進歩によって、それぞれの分野の専門医が専門の機関で研究や医療を行うようになりました。しかし、思春期を対象にした対策はまだ立ち後れています。思春期は子供でも大人でもありません。この時期は身体的にも、精神的にも成長発達しつつある特異な時期です。したがって、これらの特異性を理解している人達によって専門的な診療や研究が当然行われてよいはずで、そこで本会では、すべての思春期の人々の健康を守り、健全な発達を促すために、産婦人科、小児科、泌尿器科、精神科、公衆衛生をはじめ多くの領域の医師や保健師、助産師、看護師、大学・短大・専門学校教員、高校・中学・小学校教員、養護教諭、心理・福祉関係・その他の 12 区分の学会員が集い、思春期に関する研究、知識の普及および関係事業の発展を図り、以って人類の福祉に寄与することを目的として活動しています。

主な事業として

- ・総会・学術集会の開催(年 1 回)
- ・学会誌「思春期学」刊行と「優秀論文賞」表彰
- ・思春期学研究認定者制度、性教育認定講師制度に関する活動

事務局のご案内

一般社団法人日本思春期学会

所在地:〒113-0033

東京都文京区本郷 3-40-10 三翔ビル 4F

株式会社プランニングウィ内

(ホームページより文責：根田真江)

せん。対象者にとっての面接は、「罪を犯した自分に対し科せられたもの」ですから、面接には行かなければなりません。しかし、保護司は自分を裁く側の人であるという思いが最初はあることが多いです。そこで、面接を重ね対象者にとって「保護司は、困ったことが相談でき、共に考えてくれる人、同行者である。」ということに気付くようにしています。そこで、初回面接からしばらくは、コーヒークップモデルのワンネスがつかれるように努めます。関係性が生まれたら、ウイネス、アイネスと進められるよう状況を見て進めています。そうすると、前回の面接からの間に自分の中で起こったことを話してくれるようになります。

保護司さんの中には、面接に不慣れな方もいます。そこで、保護司会の研修では、面接技法についてお話することもあります。特に、ワンネスについての大切さを伝えていきます。真面目に、対象者を更生させる立場にあるという気持ちで面接に臨むと、こちらの思いを押し付けて、うわべだけの面接になってしまうことがあります。そこで、あるがまま相手の言うことを聴くには、「直そうと思うな、分かってせよ。」の姿勢が大切であることを伝えていきます。

更生保護女性会のミニ集会に講師として伺った際には、参加者の方々に SGE を実施して関係づくりを行い、「子どもの発達と自分目線のバイアス」についてお話をしました。

保護司は、個に対する対応が多いのですが、保護司会としての活動には、チームワークが必要です。集団を育てるためにも、今後は会の始めに SGE のショートエクササイズを行い関係を深め、いつでも相談し合える保護司会に育てています。

これらの実践は、教育カウンセリングを学び、保護司活動に生きているものです。

現場訪問シリーズ③⑤

保護司活動に生きる教育カウンセリング

東京教育カウンセラー協会 望月保美

私は、公立小学校の教員を退職後、保護司をしています。保護司は、法務大臣に委嘱された非常勤の国家公務員ですが、ボランティアです。活動の内容は、①犯罪や非行をした人の立ち直りを助ける活動。(面接、環境調整) ②地域の方々に立ち直りについての理解と協力を求め、安心安全な地域づくりを行うための活動(更生保護活動) <全国保護司連盟 HP より> があります。

保護司活動をする中で、教育カウンセラーとしての学びが役立っている事例をお話したいと思います。

保護司として対象者を担当すると、面接は避けて通れま

実践研究シリーズ③⑥

各地で学習サークルを開こう！

～自主学習サークル「こもれびの会」の紹介を通して～

こもれびの会 七海 千加

教育カウンセラーである私が主宰する自主学習サークル「こもれびの会」をご紹介します。本会は後援会や事務局を持たず、自由な形で運営しているサークルです。

【「こもれびの会」の立ち上げ】

私の職務は、主に気になる児童生徒への支援を行う指導主事として学校現場をサポートすることです。その経験を通じて、多くの教員に力量形成が必要であると感じていました。そこで、学校外でも学びの場を提供し、教員が自

身の力を高められるように、自主学習サークル「こもれびの会」を立ち上げることにしました。

当初は、継続できるかという不安もありましたが、①教育現場で役立つ学びを提供し、②誰でも気軽に参加できる安心な場とすること、さらに③参加者のニーズに応える内容にすることを運営の柱に据えました。現在、本会は参加者みんなで作り上げる会を目指しています。

【黎明期】

初回の研修では、教員の要望に応じて子どもの読み書きの力をアセスメントする「STRAW-R」(宇野・春原・金子・Taeko N.Wydell, 2017)に関する講義と演習を行いました。このスクリーニング検査は学習支援に活用できるもので、参加者 6 名が活発に意見交換をしながら学びました。研修終了後には「充実した時間を過ごせた。」という感想をいただきました。また、その後、参加者が学んだ内容を職場で活かしたとの報告もありました。



〈アルミ箔を使った版画指導〉

第 2 回では、初回の学びをさらに深めるため、前述の参加者の職場での実践報告に基づいて、検査結果の分析と支援策の検討を行いました。この回では、参加者同士が主体的に学び合う姿が見られ、単なる講義から課題意識を共有し議論する場へと進化しました。



〈アセスメント研修〉

第 3 回以降は、「WAVES」(竹田・奥村・三浦, 2014)や「包括的領域別読み能力検査(CARD)」(奥村・川崎・西岡, 2014)などのアセスメントを学びました。これらは保護者との連携にも活用され、客観的な資料を介することで保護者との信頼関係の構築に役立っています。

【転換期】

立ち上げから 1 年が経過して、研修テーマが広がりました。例えば、「アンケート QU」(河村, 1998)でした。QU を研修テーマに決めたのは、多くの学校で実施されつつも、結果を綴っておくだけの現状を改善したいという思いからでした。会津大学の苅間澤勇人教授を講師に招きました。2 時間 30 分の研修時間がとても短く感じられるほどの充実した研修で、参加者の多くが学級経営の在り方や個々の子どもへの指導の仕方に関心をもつことができました。また、後日、研修内容を所属校で伝達講習を行い、同僚と共有した参加者がおりました。

その他には、一人一人の学びを保障するために UDL (学びのユニバーサルデザイン) の学びを早稲田大学の高橋あつ子教授を講師に招き開催しました。研修後に、所属校内で共有したいとの思いから再度、講師を所属校に招いた参加者がいました。また、都留文科大学の品田笑子特任教授を招いて「CSS (クラスルームソーシャルスキル)」の研修も行いました。これらの研修を通じて、本会の学びが所属校や地域の同僚へ広がっていく様子が見られました。

【発展期】



その後も多様な研修を企画しました。例えば、学習指導や医療的知識の研修、絵画指導や特別活動の学級活動指導などの実技演習です。講師は、地域の先達の教員にお願いしました。これらの研修を通して、学びの機会が一層身近にあると感じることができました。さらに、日頃の悩みを話し合う場や参加者の心を癒やす目的で、バイオリンのミニコンサートなども行いました。また、互いの教材を持ち寄り、どのように生かしているかを情報交換する場を設けたこともありました。このように、知識を得るだけでなく、活動を通じて仲間意識が生まれ、心理的な安全性を提供できる場となることを目指しました。

【運営の工夫】

本会は、参加者の負担を軽減するために事務局を設けず、研修の企画は私が中心となり、必要に応じて参加者が協力しています。研修テーマは参加者の要望を基に決定し、主に児童生徒の支援に必要なものになっています。会は月 1 回、3~4 時間のペースで開催しています。参加しやすくなるように 2~3 か月先までの計画を立てて予告しています。会場は地域の公共施設を利用し、費用は講師謝金や資料代、会場費などの実費を参加者で分担しています。会場設営は有志が行い、参加費徴収などの運営もお互いに声を掛け合って有志が役割を分担しています。会に参加して学び合う仲間と交流することも大切であると考えていますので、「もぐもぐ time (休憩を兼ねた tea-time)」を設けて交流を深める工夫をしています。現在は口コミやメール案内を通じて参加者を募り、約 80 名に案内を送っています。これまでの運営スタイルが、教師の自発性や仲間意識を高める一助となっていると感じています。

【こもれびの会の意義】

「こもれびの会」を設立してから 3 年が経過し、本会が地域の先生方に徐々に認知されてきたと感じています。ある学校では本会の案内チラシを職員室に掲示して下さるようになりました。

本会は、知識の獲得だけでなく、参加者同士の仲間意識を育む場でもあります。安心して学べる場と時間を提供し、①研修・②実践・③感想・④意見交換（感想を共有し向上させるためのディスカッション）を繰り返すことで、単独では得られない学びのシステムを構築しています。このサイクルを通じて、学びが深まるだけでなく、同僚性を育む安全な空間となっています。

本会は、子どもや保護者、さらにはさまざまな団体と関わる中で、挑戦し、迷いや挫折を乗り越えようとする教師の集まりでもあります。時には「もう職を辞めたい」といった深刻な相談が寄せられることもあります。一人で悩み、外部の相談機関に頼っても解決が難しいと感じることもある中で、本会に気軽に参加し、思いを話すことで心が軽くなるとおっしゃる方もいます。

参加者の向上心やチャレンジ精神を継続して支えるために、研修内容を検討し続けることは非常に重要です。本会に何度か参加された方々は、顔を合わせると「こんにちは、元気？」と友人のように挨拶を交わしています。この居心地の良さが、安心できる場であることを物語っています。しかし、居心地の良さだけでは学びは継続されず、進展も望めません。

以前、参加者から次のような言葉をいただきました。「教師が主体的に学べる場が身近にあることで、悩んだときに気軽に相談できると感じられます。」（参加者 A）「こもれびの会には、たくさんの疑問を持って参加します。そして、アイデアをもらい、それを現場で実践するというサイクルを繰り返しています。それが、私がこもれびの会に参加する理由の一つです。」（参加者 B）



〈受講中のシェアタイム〉

こうした声を聞くたびに、現場の声を丁寧に拾い上げ、その解決策を模索する学びの場を提供することの重要性を痛感します。仲間とともに学びながら、自分磨きも忘れずに、代表として小さな自主学習サークルを継続させていくことが大切なのだと考えています。

【今後の活動について】

小さな学びのサークルは、学びの内容が固定化しやすい傾向があります。学びをどのようにつなげ、広げていくべきか。また、子どもや教育現場を取り巻く社会情勢がどのように進んでいるのかを見極めるのは、小さなサークルの視点だけでは困難です。学びが固定化されると、参加者から「以前も同じ内容を聞いた。」といった声が上がリ、学びへの意欲が低下してしまう恐れがあります。

本会は、これまで参加者の感想や口コミを通じて徐々に広がりを見せてきました。参加者からは、「今度、知人を誘ってもいい?」「この間、勉強会で紹介されたことを実際に試してみました。」「目からうろこが落ちるような時間でした。」といった感想が寄せられています。これらの声から、学びが新たな気づきにつながり、安心して参加できる環境が整ってきていると感じています。また、参加者が本会で得た学びを現場や地域で実践し、共有している様子が見受けられます。最近では、他団体から得た学びを伝達、共有してくれる参加者も現れるようになりました。このことは、本会が他団体との相互作用を通じて、学びを広げ、深めていることを示唆していると考えています。

2024 年度、私は隣県の学習サークルに参加し、教育カウンセリングの内容について学ぶ機会を得ました。その経験を通じて、これまでの学びを整理したり、新たな気づきを得たり、することができました。また、現在は、そこで出会った学びの仲間との交流が大きな支えとなっています。

今後本会は、本会らしさを失うこと無く、他団体との連携や学びの共有を進めていきたいと考えています。

【リーダーとしての姿勢】

堀(2005)は、「リーダーがすべき最も大切な仕事は次の時代を担うリーダーを育てることである。リーダーは本人の向上心とチャレンジ精神を持続させるよう、課題のレベルを少しずつ上げながら、できるだけ多様な場を用意してあげましょう。一中略一人は、人と人との関わり合いの中で育ち、人と関わり合うことで、多くの学びが得られます。」と述べています。私は、全く同感です。本会を主宰する私が、参加者の思いに寄り添った学びを提供していくことで学びが継続されると思います。リーダーとして参加者の向上心やチャレンジ精神を支えながら、質の高い学びを提供し続けることが私の使命だと考えています。これからも参加者と共に学び続け、小さな自主学習サークルの可能性を広げていきたいと思っています。教育現場には困難な課題が山積しています。だからこそ、教育カウンセラーが、各地で学習サークルを開いて、学びの場を提供し、教師がつながっていくことが必要なのだと思います。

【引用文献】

宇野彰・春原則子・金子真人・Taeko N.Wydell(2017).
改訂版標準読み書きスクリーニング検査 (STRAW-R)
インテルナ出版
竹田契一・奥村智人・三浦朋子(2014).『見る力』を育
てるビジョン・アセスメント「WAVES」 Gakken
奥村智人・川崎聡大・西岡有香・若宮英司・三浦朋子
(2014).包括的領域別読み能力検査 (CARD) (株)ウ
ィードプランニング
河村茂雄(1998).たのしい学校生活をおくるためのアン
ケート「Q-U」 図書文化
堀公俊(2005).ファシリテーション型 リーダーシップが身
につくスキル あさ出版
(なお、本稿は令和 6 年 9 月の日本教育カウンセリング
学会研究発表(岩手県立大学)大会での発表を再構成
したものです。)

日本教育カウンセリング学会活動報告

第 21 回 日本教育カウンセリング 学会研究発表(岩手県立大学) 大会報告

文責:大会実行委員長 大久保牧子

【大会テーマ】

多様な個性を育む教育カウンセリング

ーお互いの存在価値を認め合う集団づくりー

会 期:2024(令和6)年9月 28 日(土)・29 日(日)

会 場:岩手県立大学アイーナ・キャンパス

アイーナ(いわて県民情報交流センター)

令和6年9月 28・29 日の両日、大会テーマを「多様な
個性を育む教育カウンセリングーお互いの存在価値を認
め合う集団づくりー」とし、岩手県立大学アイーナ・キャン
パスとアイーナ(いわて県民情報交流センター)を会場に
して研究発表大会が開催されました。

当初、四年ぶりの完全対面開催であることや、体育祭
や文化祭等の学校諸行事と重なっていることから、参加
者数の減少も心配されましたが、予想を上回る 198 余名
の方に参加いただき、盛況のうちに開催できましたことを
実行委員一同感謝いたしております。

【第1日目:9月 28 日(土)】

1 日目は、「対話的・協働的な活動で非認知能力を育
てるーエンカウンターによる新しい学びの方向を探るー」と
「『チーム学校』実現のためにー解決志向チーム会議の
導入と定着ー」「支部活動を軸とした自発的(自分の現
場・地域)活動の在り方 Part Ⅲー自発・能動的学びか
ら『現実の変革へ』各専門分野での活躍ー」「子育て支
援教育カウンセラーの可能性」とのテーマで、4 件の自主
シンポジウムを開催しました。どの会場でも、参加者とシン
ポジストで積極的な意見交換が行われ、元気をもらえた
時間を過ごせたといった声が寄せられました。

続いて、本学会理事長で早稲田大学 教育・総合科学
学術院教授 河村茂雄先生より、大会テーマに沿った内
容で記念講演をしていただきました。演題は、「多様性が
いきる協働の学びがある学級集団ーエージェンシーに注
目してー」です。

口頭発表は、研究発表(24本)と、事例研究発表(8本)
を同時開催しました。各会場の座長には適切に進行して
いただき、実践者が具体的活動を紹介して成果と課題を
話し合うといった実践研究が行われました。どの会場も成
功裏に終了することができましたが、「実践を研究としてま
とめる」手立てと方法に課題が残ったとの反省も指摘され
ました。

【第2日目:9月 29 日(日)】

大会2日目は、ポスター発表(25 本)を、開催しました。
聴衆側から質問やアドバイスを通して、参加者と発表者
との議論が活発に行われていました。

最終プログラムとして、実行委員会企画の公開シンポ
ジウムを行いました。

テーマ:多様な個性を育む教育カウンセリング

総括討論者 河村茂雄

(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

コーディネーター 大久保牧子

(岩手県立大学 准教授)

話題提供者

大学教育での実践 本田 真 先生

(名古屋産業大学 准教授)

中学校教育での実践 木嶋 葉子 先生

(神栖市立神栖第四中学校 養護教諭)

小学校教育での実践 木村 佳穂 先生

(栃木県 スクールカウンセラー)

幼児教育での実践 浦和 和子 先生

(社会福祉法人シオン会 理事長)

浦和様からは、幼児期から周囲の大人のかかわり方が大事であり、適切なサポートによって、ソーシャルスキルを含む非認知能力を育てることができるといった考えから、幼児期に育てたいこと、個から集団で学んでいくもの等について、教育カウンセリングの実践をご紹介いただきました。木村様からは、「多様な個性」の児童が集団生活を送るには、個も集団も理解が大切であり、その子たちが集団で生活をしていけるスキルをグループワークで育てていくことが大切であるとお考えから、アセスメントを活かした個の理解と、グループアプローチを工夫してソーシャルスキルを育てる支援についての実践をご紹介いただきました。木嶋様からは、個を大切にするときの基本姿勢の背後にある「命を愛しく思う」価値観の必要性、弱い子や、やっかいな子はおらず、多様性を示している子どもであるという価値観で、“あなたも大事”とメッセージを伝えることを大切に実践をご紹介いただきました。本田様からは、「多様な個性を育む」には、その覚悟をサポートするスーパーバイザーの必要性を述べながら、オープンマインドあるいは自己開示的に誰とでもかかわれる人の特徴である「普遍化信頼性」に、「特定化信頼」から「普遍化信頼」の接続を期待したグループアプローチの活用についてご紹介いただきました。

多様な文化や価値観が共存する社会において、誰もが安心して暮らせる社会を実現するためには、一人ひとりの個性を尊重し、社会の中でその能力を最大限に発揮できるような環境を整えることが不可欠です。特に教育の現場においては、子どもたちが自己の存在価値を感じ取り、他者の違いを尊重し合う力を育むことが求められます。公開シンポジウムでは、幼・小・中、大学の現場のお立場から話題提供者いただいたことで、多様性と個性を受容し尊重する人間関係の基盤を築くための教育カウンセリングの在り方について、みなさまと考える機会となりました。

最後に、参加者の皆様には多忙な時期に、過密なスケジュールにもかかわらずご理解を賜りまして感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

サイエンティスト・
プラクティショナー賞の受賞
おめでとうございます

勝田 みな

今回2度目のサイエンティスト・プラクティショナー賞を拝受いたしました。

学会当日には大勢の会員が出席された開会式において、表彰式を催していただき、誠にありがとうございました。二度とない経験であり、大変、感動し光栄に存じます。

学会では、ポスター発表、口頭発表、事例発表、ミニ研修会とキャリアについて発表を継続してまいりました。先生方からは、常に温かくも厳しい教えを賜り、研究を続けることができました。

現在、三重大学と名古屋音楽大学にてキャリア教育論等を教えています。また、キャリアコンサルタントとして、小学校、幼稚園、保育所に勤めるミドルリーダーのキャリア形成支援を行っております。教職員のウェルビーイング向上をめざして、幸福感を味わえる毎日が送れるよう支援を継続しております。

この度の表彰に感謝して、今後もキャリア分野の研究を進めてまいります。変わらぬご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

河村 明和

このたびは、このような賞を賜り大変光栄に存じます。同時に今回の受賞をうけ、身が引き締まる思いです。この賞に関わる研究活動に携わっていただいた皆様に深く感謝を申し上げます。

今後は、今回の受賞を励みに、私の研究のテーマである、部活動と教育効果の関連が教育に関わる方々の一助となるように、より一層研究活動に邁進していきたいと思っております。今後とも皆様よりご指導ご鞭撻をいただけますと幸いです。

このたびは誠にありがとうございました。

神奈川県立保健福祉大学
深沢和彦

このたびは、かねてから熱望していたサイエンティスト・プラクティショナー賞をいただき、大変うれしく光栄に存じます。

先にこの賞を受賞した仲間から“名前入りのボールペン”を見せてもらい、「続ければとれる、いつか私も・・・」と思い

ながら、教育者だからこそできるカウンセリングの実践と研究を続けてきました。私は小中学校での教職経験が長く、自分自身を研究者と実践者の中間に位置づく“実践的研究者”であると自負しています。私のような者の存在意義は“実践と研究の橋渡し”にあるのではないかと思います。

私は教員時代の問題意識から「通常学級のインクルーシブ教育」をテーマとして研究をスタートし、はや 20 年になりますが、いまだ関心は尽きず終わりは見えません。今回の受賞を励みに、今後も教育現場の思いを掬い上げ、教師や子どもたちの役に立つ研究知見を発信し続けていきたいと思っています。

藤田 道子

今回の受賞にあたり、実に多くの人の力添えをいただき、成長させていただいていることを感謝するとともに、これからは、苦手意識の強い過去の自分を認めようと思う気持ちになりました。



実は、私は子どもの頃、勉強をする時間がもったいないと思う程の勉強嫌いでした。学会に所属していらっしゃる先生方から見たら、この賞に似合う人物か？と思われるに違いありません。しかし、教育カウンセリングの折衷主義やカウンセリングマインドを知ってから、「このままではいけない。先生と呼ばれることに満足してはいけない。目の前にいる子どもたちの成長を促すためには実践と研究が大切なんだ。」ということを理解したのです。

ですから、もう、できないことがたくさんある自分を嘆くのをやめ、これからはサイエンティストの一人として、自分らしく歩みを進めていきたいと思っています。

「第 22 回 研究発表 早稲田大会」のご案内

第 22 回日本教育カウンセリング学会
研究発表大会実行委員長
早稲田大学教育・総合科学学術院 客員教授
生貝博子

この度、「第 22 回日本教育カウンセリング学会研究発表大会」を、2025 年 11 月 8 日（土）、9 日（日）にわたり早稲田大学において開催することになりました。大会テーマは「発達課題の達成を支える教育カウンセリング—具体的な実践の工夫—」です。ここに、大会実行委員長としてご挨拶を申し上げます。

前回、早稲田大学を会場として「第 17 回研究発表大会」が行われたのは 2019 年。その時の大会テーマは、「これからの教育改革を成功させるキーポイントは何か—主体的・対話的で深い学びとなる授業改善とインクルーシブ教育推進を両立させる教育カウンセリング—」でした。2020 年には、キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院教授）が、「子どもたちの 65%は将来、今は存在していない職業に就く」と予測し、マイケル・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）は、「今後 10 年～20 年程度で 49%の職業が機械に代替される可能性がある」と衝撃の発表をして大きな話題となりました。第 17 回研究大会のテーマが、このように変化の激しい時代を生きる子どもたちが社会の中で活躍できる資質、能力を育成することを目指した教育改革をいち早くキャッチし、マッチしたテーマであったことに改めて気づかされました。しかし、現在の社会の変化はこの時予測された以上に急ピッチで進み、学校教育も更なる変化を加速せざるを得ない状況に追い込まれているように思います。

2021 年 1 月には「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して—全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現—」という中央教育審議会答申が示されました。「令和の日本型学校教育」とは、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、ICT を基盤としながら「日本型学校教育」を発展させる、それが 2020 年代を通じて日本の目指す学校教育の姿だとしています。しかし、このようにすべての子どもの可能性を最大限引き出す教育が求められてはいますが、教室には発達障害や特異な才能をもつ子ども、日本語が十分に理解できない外国籍の子ども、学校に馴染めず不登校となる子どもなど、個別対応が必要な子どもが年々増加の一途をたどっています。また、その他にも、現代の日本の子どもが抱える発達課題は、家庭の教育力の低下や希薄な親子関係などを起因とする身体的・精神的な健康の低下、学習意欲や社会性の低下、コミュニケーション能力の低下などがあります。子どもの発達過程において現れる達成すべき発達課題が、達成されずに課題が先延ばしされ、後の発達課題の達成や習得が困難になっている子どもも増加しているように思われます。したがって、学校はこれらの多様な特徴をもつ子どもたちに対して、協働的な学習を行っていくためには具体的な工夫が必要だと考え、2025 年の早稲田大会のテーマは「発達課題の達成を支える教育カウンセリング—具体的な実践の工夫—」としました。早稲田大会では、このテーマのもとに、参加者の皆様と共に子どもたちの発達課題の達成を支える教育カウンセリングの在り方について

議論を深め、教育現場で働く我々の明日からの意欲につながるような大会にしたいと考えております。

また、大会についてですが、例年学会大会は 10 月に行われておりましたが、今回は 11 月の開催となり、前回同様、対面による開催を予定しております。会場は、第 1 日目は早稲田大学・早稲田キャンパスの国際会議場（井深大記念ホール）、第 2 日目は同じく早稲田大学・早稲田キャンパスの第 3 号館校舎になります。大会の第 1 日目に行う大会記念講演では、河村茂雄理事長（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）から、大会テーマに関してご講演をしていただきます。その他、事例発表、自主シンポジウム、研修会を行い、タベには全国各地からお集まりになる皆様との交流を深められるように情報交換会を企画しております。また、第 2 日目には、ポスター発表、口頭発表及び実行委員会企画による公開シンポジウムを予定しております。大会開催にあたりましては、会員による研究発表等を募集しております。多くの皆様に研究発表にご参加いただければ幸いです。都の西北早稲田の杜で、会員の皆様、学校関係者、教育にご関心をお持ちの多様な方々と議論を深め、意見交換を行うことができればと存じます。

最後に、本大会の実行委員会は、早稲田大学河村研究室の大学院生を中心に組織しておりますが、大会に関する情報は教育カウンセリング学会 HP に随時情報を更新してまいりますので、ご確認いただき、多数のお申込みとご参加を頂きますようお願い申し上げます。なお、昨今、東京は外国人観光客が急増し、ホテルの予約がなかなか難しいと聞いております。遠方よりご参加頂ける場合には、宿泊先の早めの予約をお勧めいたします。本大会が教育カウンセリングの発展に寄与する場となることを願い、実行委員会一同、心より皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2024 年度日本教育カウンセリング学会常任理事会 (Zoom 会議)

第 3 回～第 6 回議事録のまとめ

第 3 回常任理事会(2024 年 9 月 1 日開催)

9 月 1 日より新規に任命された常任理事を迎え第 3 回常任理事会をおこなった。

議題 (1) 2024 年度研究発表(岩手県立大学)大会の
進捗状況について

(2) 2025 年度研究発表大会について

(3) 各委員会からの報告

(4) その他: 次期役員の委員会所属、新委員による
情報交換

第 4 回常任理事会(2024 年 11 月 3 日開催)

議題 (1) 2024 年度研究発表(岩手県立大学)大会の
開催報告。

198 余名の参加者を迎え、盛況であった。

(2) 2025 年度研究発表(早稲田大学)大会に
ついて

(3) 各委員会からの報告

編集委員会より優秀論文賞選考について進捗状
況の報告

(4) その他

第 3 回研修会についてアンケート回答者全員が
「大変満足できた」と回答があったと報告があった。

第 5 回常任理事会(2025 年 1 月 12 日開催)

議題 (1) 2025 年度研究発表(早稲田大学)大会の
進捗状況について

(2) 各委員会からの報告

編集委員会より: ①『教育カウンセリング研究』
第 13 巻の発刊について②優秀論文賞選考委員
決定について③新査読委員の受諾について
研究委員会より: 第 18 回公開講演&シンポジウム
について

(3) その他: 各委員より近況報告

第 6 回常任理事会

議題 (1) 2025 年度研究発表(早稲田大学)大会の
進捗状況について

1 日目 11 月 8 日(土)@国際会議場

2 日目 11 月 9 日(日)@早稲田大学 3 号館

(2) 各委員会からの報告

総務委員会から「慶弔規定」について検討報
告があった。

編集委員会から優秀論文賞選出と査読委員の
委嘱について報告があった。

総務委員会から第 18 回公開講演&シンポジウ
ムについて報告があった。

広報委員会より広報 64 号について報告があっ
た。

(3) 事務所の賃貸料の負担について事務局長
より報告があった。

(4) その他

事務局長より2024年度の総会についてと来年度の研究発表大会について報告があった。

以上
文責 高橋・荻間澤

日本スクールカウンセリング推進協議会の案内

2025 年 4 月開講「スクールカウンセリング
専門研修プログラム（第一期）」

日本スクールカウンセリング推進協議会事務局長
鈴木昇平

当協議会は、いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題の未然防止や早期発見・対応、発生後の課題解決などの取り組みを、学校職員、保護者あるいは地域の専門機関などとチーム支援として行うことを提案してまいりました。現在、この提案が社会から一定の評価を得ている状況ですが、その集大成として、「スクールカウンセリング専門研修プログラム（第一期）」を、2025 年 4 月から e ラーニング講座として開講することになりました。

61 の e ラーニング講座+医療機関でのオプション講座から成る本プログラムは、日本では類を見ない、スクールカウンセリングの体系を系統的に学べる専門研修プログラムとなっており、スクールカウンセラー（SC）を目指されている方や現在 SC の仕事をされている方はもとより、各種教育現場でスクールカウンセリングの実践をなされている方にも、その専門性を高める最適のプログラムとなっております。

「スクールカウンセリング専門研修プログラム（第一期）」のお申し込み状況は、以下の通りです。

・全科受講者（全科フル学修コース）49 名

全科目 61 講座を「自己課題探究時間（レポート）あり」で学修する、計 183 時間のコースです。

※「自己課題探究時間」とは、受講内容の振り返りで得た「気づき」や「発見」を各自の課題に従い実践活動にどう活かすかについて探究・考察し、レポート作成を行う時間のことです。各講座につき、90 分の時間を想定しています。

※このコースの方は自由選択科目「医療機関実習」を選択できます。

・全科受講者（全科動画学修コース）70 名

全科目 61 講座を「自己課題探究時間（レポート）なし」で学修する、計 91.5 時間のコースです。

※このコースの方は、自由選択科目「医療機関実習」を選択できません。

・科目等受講者（13 講座トライアルコース）57 名

トライアル（お試し）のため講座の一部分〔科目 1（3 講座）と科目 2（10 講座）の計 13 講座〕を体験的に学修するコースです。「自己課題探究時間（レポート）あり」で学修します。

※次年度以降に「全科フル学修コース、全科動画学修コース」へ移行して受講することができます。その際、すでに受講した講座（13 講座）を受講する必要はなく、受講料もすでにお支払いした分が差し引かれます。

・自由選択科目（医療機関実習）定員 8 名中 8 名

第二期の受付は 2026 年 1 月頃を予定しております

特定非営利活動法人日本教育カウンセラー協会

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15 アトラスタワー 茗荷谷 3 F

TEL:03-3941-8049 FAX:03-3941-8116 E-mail:jim@jeca.gr.jp

URL:https://www.jeca.gr.jp

日本教育カウンセリング学会

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15 アトラスタワー 茗荷谷 3 F

TEL・FAX:03-3941-0213 E-mail:jsec.jimu@gmail.com

URL:https://jsec.gr.jp/

日本教育カウンセラー協会機関紙第70号・日本教育カウンセリング学会64号 2025年 6 月吉日発行

発行人 新井邦二郎

編集 JECA 広報委員会（加勇田修士、荻間澤勇人、川崎知己、楠元奈津子）

JSEC 広報委員会（加勇田修士、根田真江、神保しげみ）